

# 令和2年度第4回岡山市総合教育会議

日 時：令和3年2月9日（火）

午後3時30分～

場 所：市庁舎 第3会議室

## 会 議 次 第

1 開 会

2 協議事項

次期教育大綱の策定について

3 閉 会

## 次期岡山市教育大綱骨子（案）

### 【タイトル】

第2期 岡山市教育大綱

### 【前 文】

はじめに

- ・ 第1期大綱の成果とこれからの方向性について
- ・ 教育を取り巻く社会環境の変化

### 【本 文】

#### 1 施策の目標

（1）岡山市がめざす教育「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」

郷土の先人・犬養木堂は、「教育は国家百年の大計」という表現のもととなった、中国春秋時代の管子のことば「終身の計は人を樹うるに如くは莫し」を引いて、『樹人』という書を遺されました。

まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりです。百年先を見据え、教育を通じて、未来の郷土、ひいては世界の発展の基礎を築いていくことが岡山市の使命であり、先人の教えを胸に刻み、社会全体「オール岡山市」で人づくりに力を注ぎます。

（2）めざす子どもの姿「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」

ア 今、求められているもの

第1期大綱策定当時、「学力」の面では、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果で、岡山市の正答率を都道府県の順位に当てはめてみると、特に中学校においては40位台で、最下位となる教科も見られたこと、また、「問題行動等」の面でも、平成27年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果で、中学校における暴力行為は全国平均の約2倍、小学校での不登校出現率も全国平均を上回る状況が見られたことから、教育委員会や学校はもとより岡山市の取組が十分ではなかったと言わざるを得ず、その強い危機感から「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」に4年間、集中的に取り組むこととしました。

その結果、「学力」については、令和元年度全国学力・学習状況調査の結果で小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに偏差値50以上を実現し、子どもたちの考える力の基礎を築けたと言える状況となりました。一方、「問題行動等」については、各学校において組織的に対応する体制づくりなどが進みましたが、令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査によれば、暴力行為の発生件数は、小学校で全国平均と同じような増加傾向が見られ、中学

校では全国平均の約2倍で推移、不登校は、小学校・中学校合わせた出現率が全国平均よりも緩やかな増加にとどまっている状況です。

この現状を踏まえ、今、岡山市の学校教育において注力すべきことについて、総合教育会議で協議を重ねた結果、現在、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や情報技術の革新が大きく進む中、社会構造や雇用環境が急激に変化しており、将来予測が困難になっていることから、今の取組を継続しつつ、どのような社会になっても子どもたちがより良く生きていけるための必要な力に特に目を向けて、育んでいくことが必要だと判断しました。

なお、これからの時代に必要な人材について次のとおり整理しました。

- ・必要な情報を主体的に収集・判断し、目的のために役立てることができる。
- ・想定できない困難に対しても、あきらめずに乗り越えようとすることができる。
- ・多様な人々と協力して自分の良さを発揮できる。

## イ めざす子どもの姿

上記の人材像をもとに岡山市がめざす子どもの姿として「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」を掲げ、今、育むべき力を「活用力」「表現力」「向上心」「社会性」「人権尊重の精神」の5つとします。この5つの力を育むための基礎となる目標として、令和3年度から令和7年度までの5年間「全国平均レベル以上の学力」と「新規不登校児童生徒の減少」に取り組んでいきます。

## 2 施策の方針

### (1) 「検証と成果」

第1期大綱のもと、学校と教育委員会が中心となり具体的な取組を進めたことで、教職員を含む教育委員会組織全体の意識が高まり、全ての学校で学力の向上や問題行動等の解決に向けた取組が進みました。そして、分かりやすい授業を進めることで、児童生徒の学校生活への安心感と意欲につながりました。

## ア 学力の向上

### 【第1期大綱の目標値】

- ・全国学力・学習状況調査の偏差値が、小学校51、中学校50となることを目指す。

### (ア) 第1期大綱にもとづく取組の方針

児童生徒の学力を付けるために、授業を変える。

(イ) 取組による結果

<p>全国学力・学習状況調査や岡山市の独自調査の結果をもとに、教育委員会と学校が授業について協議する機会が増えた。</p> <p>(全国学力・学習状況調査の結果を活用した授業改善 100%)</p>	<p>教員が、自分の授業について積極的に校長等に指導助言を求める姿が増えた。</p> <p>(校長による週2回以上の授業参観と授業の良さや課題等への助言 100%)</p>	<p>教職員がより良い授業づくりについて、日常的に会話する姿が増えた。</p> <p>(授業に役立つ研修の実施 100%)</p>
---	--	---

(ウ) 総括 (成果)

- a 基礎的な知識を身に付け、それをもとに「考えることができる子ども」が育ってきた。
- b 全国平均レベルの学力の達成

イ 問題行動等の防止及び解決

【第1期大綱の目標値】

- ・中学校の生徒1000人当たりの暴力行為の発生件数が、平成27年度の全国平均(9.5件)以下となることを目指す。
- ・小学校の不登校の出現率が、平成27年度の全国平均(0.42)以下となることを目指す。

(ア) 第1期大綱にもとづく取組の方針

児童生徒の問題行動等を防ぐために、毅然とした態度で指導する。

(イ) 取組の結果

<p>問題行動等の防止に向けた各学校の方針が明確になり、家庭・学校・地域が協働した取組が進んだ。</p> <p>(問題行動等の防止に関する方針の策定と保護者等への説明 100%)</p>	<p>教職員が、問題行動等に対する具体的な協議をする機会が増えた。</p> <p>(年3回以上の研修会等の実施 100%)</p>	<p>児童生徒が、自分の気持ちを考えたり、守るべきルール等に気づいたりすることのできる機会が増えた。</p> <p>(善悪の判断や思いやりの気持ちを学ぶ道徳授業や、警察と協働での非行防止教室等の実施 100%)</p>
---	---	---

(ウ) 総括 (成果)

- a 問題行動等の未然防止や早期解決に向けて、教職員が一人で抱え込むことなく、学校全体での取組が進んできた。
- b 小学校・中学校合わせた不登校の出現率は、全国平均に比べ緩やかな増加にとどまる。

## (2) 「課題と取組」

一定の成果があった一方で、記述式問題の正答率の改善が不十分であったり、英語力が全国レベルに達していない、新たな不登校児童生徒の増加と長期化という児童生徒に関する課題があるほか、教職員についても情報技術の活用能力の研鑽や若手の人材育成を早急に行わなければなりません。これまでの成果につながった取組を継続するとともに、授業改善や学校生活全般を通して未解決の課題や社会の変化による新たな課題への取組を進めていきます。

また、予測困難なこれからの時代を生きる子どもたちが必要とする力を育むために、岡山市がめざす子どもの姿が何なのかを明確にする必要があります。

### ア 課題

#### 【児童生徒に関する課題】

- 記述式問題の正答率の改善が不十分
  - ・身に付いた知識を関連付けて答えを導き出す力が弱い。
  - ・考えの理由を明確にして説明する力が弱い。
- 英語力が全国平均レベルに達していない
- 新たな不登校児童生徒の増加と長期化

#### 【環境の変化等からの課題】

- 急激で予測が困難な社会の変化
- グローバル化や情報化の急速な進展
- 教職員の年齢層の偏り

### イ これまでの取組で継続していくもの

- 教育長を中心とした教育委員会の学校訪問による学校運営・授業改善への助言指導（学期1回以上）
- 教育委員会と校長会等との学力向上に向けた定期的な情報交換
- 校長を中心とした校内の授業参観・指導助言（週2回以上）
- 各学校での学力調査等の結果を効果的に活用した授業
- 各学校での研修会や個々の状況をもとにしたケース会議の実施（年3回以上）
- 家庭訪問（欠席連続3日）や支援計画の作成（年間欠席10日以上）による各学校での組織的な取組

### ウ 新たに取り組んでいくもの（不十分だった視点・新たな課題の視点）

- 学校は、児童生徒が議論しあう活動や探究する活動を取り入れた授業づくりについて協議を進める。
- 教育委員会は、教員が授業の中で効果的にICTを活用できるよう、デジタル教科書の導入やICT活用事例の作成など、教育環境の整備を行う。
- 教育委員会は、若手教職員が指導方法を直接学ぶ研修等の充実を図る。
- 教育委員会は、関係機関と連携して、不登校の取組強化に向けた学校への指導助言や支援の充実を図る。

### (3) 「めざす子どもの姿」と「5つの力」

今後、社会がどのように変化するのかわからない状況のなか、子どもたち一人ひとりがそれぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造できるようになるために、教育委員会、学校、教職員がめざす子どもの姿のイメージを共有して取組を進めるとともに、関係部局が連携しながら、これからの時代を生きる力を育てていきます。

#### ア 岡山市がめざす子どもの姿

自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども

#### イ 育む5つの力（めざす子どもの姿に必要な力）と育む力を測る指標

育む5つの力	指標
<b>活用力</b> 情報を収集して、解釈したり活用したりする力	○自分の考えを整理して伝えることができる児童生徒の増加 全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率の対全国比（岡山市の正答率/全国の正答率）を1以上にする。
<b>表現力</b> 自分の思っていることや考えたことを、他者に分かりやすく伝える力	○情報を収集し、考えをまとめて発表している児童生徒の増加 探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合を全国平均レベル以上にする。
<b>向上心</b> 何事に対しても、粘り強く取り組み、乗り越える力	○協力しようとする児童生徒の増加 協力して取り組んだことがうれしいと感じる児童生徒の割合を基準値(R1)から5ポイント以上上昇させる。
<b>社会性</b> 他者と一緒に考えたり、同じ方向で取り組んだりする力	○人を大切にできる児童生徒の増加 人が困っているときに進んで助けると考える児童生徒の割合を基準値(R1)から5ポイント以上上昇させる。
<b>人権尊重の精神</b> 多様性を認め、人権を尊重する態度	

#### ウ 5つの力の基礎としての目標

##### (ア) 全国平均レベル以上の学力

(全国学力・学習状況調査の偏差値 50 以上（英語を含む）)

##### (イ) 新規不登校児童生徒の減少

(新規不登校児童生徒（小・中合計）の出現率 0.47%以下)

#### 4 施策の推進

##### (1) 施策の実現に向けて

市長は、教育委員会に、教育長を先頭に強いリーダーシップを発揮し、本大綱に掲げる施策に取り組むことを求めます。また、教育委員会及び学校の取組状況について毎年度報告を求め、総合教育会議において検証・協議し、状況に応じて修正を加えます。

【岡山市が目指す教育】 『樹人』 明日の世界に雄飛する人を樹うる

上記の実現に向けて、教育委員会と学校が取組の方向性を共有し、具体的な取組を進めたことで、教職員を含む教育委員会組織全体の意識が高まり、全ての学校で学力向上や問題行動等に対する取組が進んだ。

**学力の向上** 目標：偏差値 (小) 51 (中) 50

**問題行動等の防止及び解決** 目標：暴力行為(中) 9.5件/1,000人 以下  
不登校出現率(小) 0.42% 以下

児童生徒の学力を付けるために、授業を変える。

児童生徒の問題行動等を防ぐために、毅然とした態度で指導する。

成  
果

- 全国学力・学習状況調査や岡山市の独自調査の結果をもとに、教育委員会と学校が授業について協議する機会が増えた。  
(全国学力・学習状況調査の結果を活用した授業改善 100%)
- 教員が、自分の授業について積極的に校長等に指導助言を求める姿が増えた。  
(校長による週2回以上の授業参観と授業の良さや課題等への助言 100%)
- 教職員がより良い授業づくりについて、日常的に会話する姿が増えた。  
(授業に役立つ研修の実施 100%)

- 問題行動等の防止に向けた、各学校の方針が明確になり、家庭・学校・地域が協働した取組が進んだ。  
(問題行動等の防止に関する方針の策定と保護者等への説明 100%)
- 教職員が、問題行動等に対する具体的な協議をする機会が増えた。  
(年3回以上の研修会等の実施 100%)
- 児童生徒が、自分の気持ちを考えたり、守るべきルール等に気づいたりすることのできる機会が増えた。  
(善悪の判断や思いやりの気持ちを学ぶ道徳授業や、警察と協働での非行防止教室等の実施 100%)

基礎的な知識を身に付け、それをもとに「考えることができる子ども」が育ってきた。

問題行動等の未然防止や早期解決に向けて、教職員が一人で抱え込むことなく、学校全体での取組が進んできた。

全国平均レベルの学力が付いた。(参考資料P4①)

不登校の出現率は、改善とは言えないが、全国に比べて緩やかな増加(参考資料P5③④)

分かりやすい授業を進めることで、児童生徒の学校生活への安心感と意欲につながった。

今後は・・・ ○これまでの成果につながった取組を継続  
○未解決の課題解決と、社会の変化による新たな課題への対応

継継の取組

- 教育長を中心とした教育委員会の学校訪問による学校運営・授業改善への指導助言（学期1回以上）
- 教育委員会と校長会等との学力向上に向けた定期的な情報交換
- 校長を中心とした校内の授業参観・指導助言（週2回以上）
- 各学校での学力調査等の結果を効果的に活用した授業
- 各学校での研修会や個々の状況をもとにしたケース会議の実施（年3回以上）
- 家庭訪問（欠席連続3日）や支援計画の作成（年間欠席10日以上）による各学校での組織的な取組

課題

児童生徒

- 記述式問題の正答率の改善が不十分
  - ・身に付いた知識を関連付けて答えを導き出す力が弱い。
  - ・考えの理由を明確にして説明する力が弱い。
- 英語力が全国平均レベルに達していない。
- 新たな不登校児童生徒の増加と長期化

環境の変化等

- 急激で予測が困難な社会の変化
- グローバル化や情報化の急速な進展
- 教職員の年齢層の偏り

新たな取組

- 学校は、児童生徒が議論し合う活動や、探究する活動を取り入れた授業づくりについて協議を進める。
- 教育委員会は、教員が授業の中で効果的にICTを活用できるよう、デジタル教科書の導入やICT活用事例集の作成など、教育環境の整備を行う。
- 教育委員会は、若手教職員が指導方法を直接学ぶ研修等の充実を図る。
- 教育委員会は、関係機関と連携して、不登校の取組強化に向けた学校への指導助言や支援の充実を図る。

自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども

自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども

必要な力

活用力

情報を収集して、解釈したり、活用したりする力

表現力

自分の思っていることや考えたことを、他者に分かりやすく伝える力

向上心

何事に対しても、粘り強く取り組み、乗り越える力

社会性

他者と一緒に考えたり、同じ方向で取り組んだりする力

人権尊重の精神

多様性を認め、人権を尊重する態度

指標

- 自分の考えを整理して伝えることができる児童生徒の増加（参考資料P4③④）

全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率の対全国比（岡山市の正答率／全国の正答率）を1以上にする。

- 情報を収集し、考えをまとめて発表している児童生徒の増加（参考資料P4⑤）

探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合を全国平均レベル以上にする。

- 協力しようとする児童生徒の増加（参考資料P4⑥）

協力して取り組んだことがうれしいと感じる児童生徒の割合を基準値（R1）から5ポイント以上上昇させる。

- 人を大切にできる児童生徒の増加（参考資料P4⑦）

人が困っているときに進んで助けると考える児童生徒の割合を基準値（R1）から5ポイント以上上昇させる。

全国平均レベル以上の学力

全国学力・学習状況調査の偏差値50以上（英語を含む）

新規不登校児童生徒の減少

新規不登校児童生徒（小・中合計）の出現率0.47%以下

指標数値：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）

将来の姿

一人ひとりが、それぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造する

①全国学力・学習状況調査の偏差値

年度	H28	H29	H30	R1
小・国語	50	51	50	51
小・算数	50	50	50	50
中・国語	48	49	49	50
中・数学	48	49	49	50
中・英語	—	—	—	49

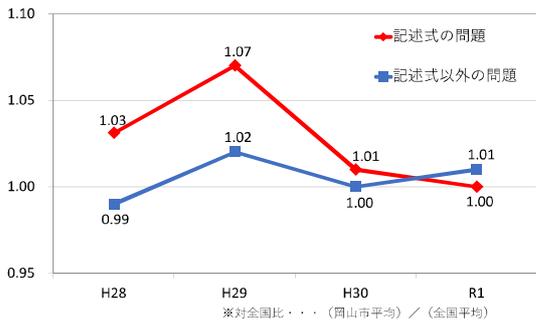
※H28～H30の偏差値については、B問題（主として「活用」に関する問題）の結果  
英語はR1のみ実施

②全国学力・学習状況調査の無解答率の対全国比

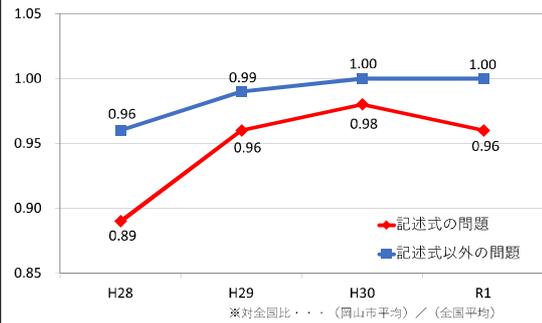
年度	H28	H29	H30	R1
小・国語	1.1	1.0	0.9	1.0
小・算数	1.1	1.0	0.9	1.0
中・国語	1.7	1.4	1.5	1.4
中・数学	1.3	1.1	1.2	1.2

※対全国比：・・・（岡山市平均）／（全国平均）

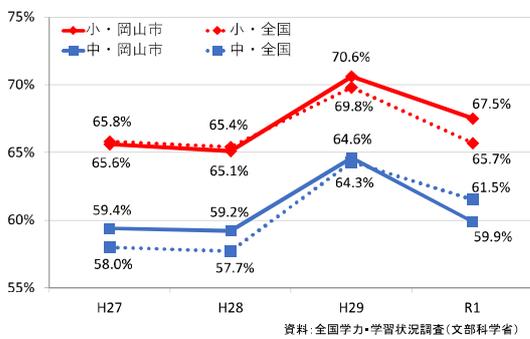
③全国学力・学習状況調査の正答率の対全国比  
（小学校の国語と算数を平均した値）



④全国学力・学習状況調査の正答率の対全国比  
（中学校の国語と数学を平均した値）



⑤探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合

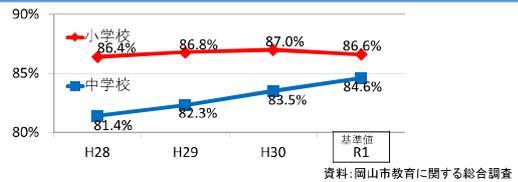


⑥協力して取り組んだことがうれしいと感じる児童生徒の割合

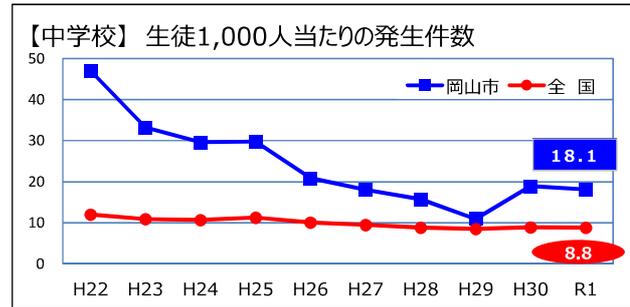
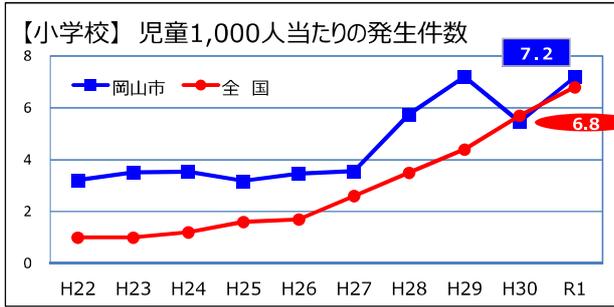
	R1（基準値）
小学校	89.5%
中学校	83.9%

資料：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

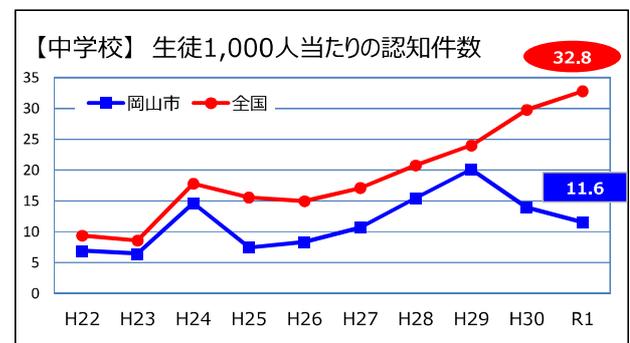
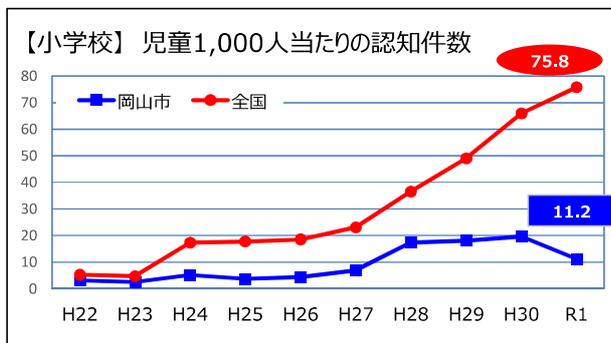
⑦人が困っているときに進んで助ける児童生徒の割合



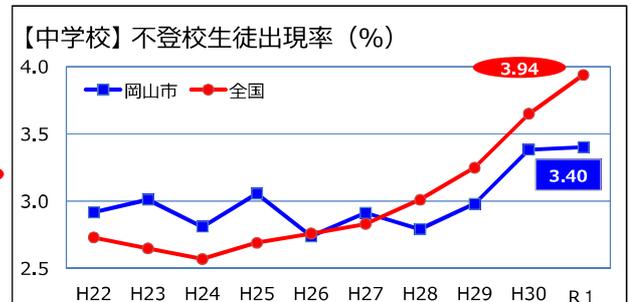
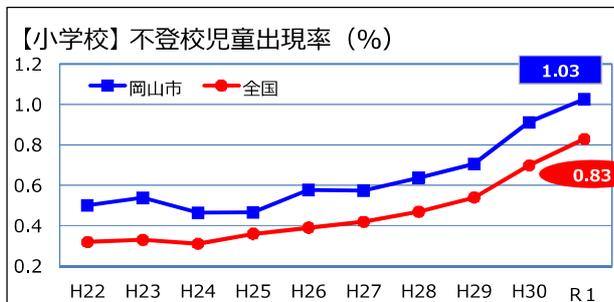
## ① 暴力行為の推移



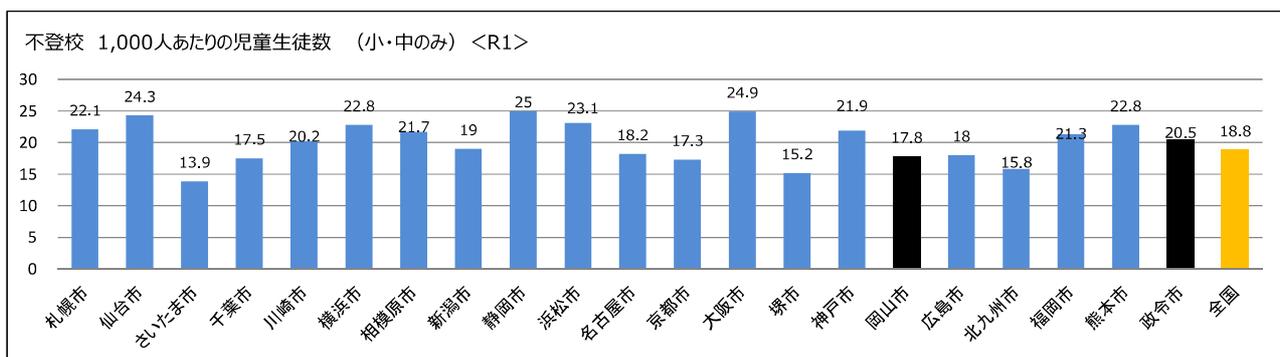
## ② いじめの推移



## ③ 不登校の推移



## ④ 不登校(政令市・全国との比較)



※「政令市」は公立小・中・高等学校、「全国」は国公立小・中・高等学校